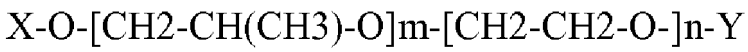
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】令和7年3月28日(2025.3.28)

【公開番号】特開2024-123076(P2024-123076A)
【公開日】令和6年9月10日(2024.9.10)
【年通号数】公開公報(特許)2024-170
【出願番号】特願2024-95922(P2024-95922)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　1/14(2006.01)
Ａ０１Ｐ　7/04(2006.01)
Ａ０１Ｐ　5/00(2006.01)
Ａ０１Ｎ63/36(2020.01)
Ａ０１Ｎ63/30(2020.01)
Ａ０１Ｎ25/22(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　1/14　　Ａ
Ａ０１Ｐ　7/04
Ａ０１Ｐ　5/00
Ａ０１Ｎ63/36
Ａ０１Ｎ63/30
Ａ０１Ｎ25/22

【手続補正書】
【提出日】令和7年3月19日(2025.3.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
以下の
ａ）一般式：
【化２】



のポリマー〔式中、ＸおよびＹは独立して水素、１～２４個の炭素原子をもつ分岐または直鎖アルキル、および２～２４個の炭素原子を有し、飽和または部分的に不飽和であり、ヒドロキシル官能基を有してもよい、分枝または直鎖カルボニル
から選択され、ここで、ＸおよびＹの少なくとも１つは、２～２４個の炭素原子を有し、飽和または部分不飽和であり、ヒドロキシル官能基を有してもよい分岐または直鎖カルボニルであり；
ここで、ｍは０～１０の間の平均数であり；
ここで、ｎは０～４０の間の平均数であり；
ここで、ｍ＋ｎはゼロではない〕
ｂ）一般式：

【化１】

H-O-[CH2-CH2-O-]a-[CH2-CH(CH3)-O]b-[CH2-CH2-O-]a2-H

のブロックコポリマー〔ここで、ａ１およびａ２は互いに独立して、１～２０の間の平均値を有し、ｂは、１５～３５の間の平均値を有する〕；
または、ａ）およびｂ）のいずれか１つの混合物；
からなる群から選択される少なくとも４０重量％の量で存在する少なくとも一つのエトキシル化および／またはプロポキシル化有機液体
および、真菌胞子
を含む、本質的に水を含まない液体調製物。

【請求項２】
ｂ）の前記エトキシル化およびプロポキシル化有機液体が、約１０００～約３０００ｇ／ｍｏｌの平均モル重量を有し、ａ１およびａ２が互いに独立して１～２０の平均値を有し、ｂが１５～３５の平均値を有するブロックコポリマーからなる群から選択される、請求項１に記載の液体調製物。

【請求項３】
ｂ）の前記エトキシル化およびプロポキシル化有機液体が、約１５００～約３０００ｇ／ｍｏｌの平均モル重量を有し、ａ１およびａ２が互いに独立して１０～１５の平均値を有し、ｂが２０～３０の平均値を有するブロックコポリマーからなる群から選択される、請求項１および２に記載の液体調製物。

【請求項４】
ｂ）の前記エトキシル化およびプロポキシル化有機液体が、約２０００～約３０００ｇ／ｍｏｌの平均分子量を有し、ａ１およびａ２が互いに独立して３～１６の平均値を有し、ｂが２５～３５の平均値を有するブロックコポリマー；および、約１４００～約２２００ｇ／ｍｏｌの平均分子量を有し、ａ１およびａ２が互いに独立して２～１２の平均値を有し、ｂが１５～２５の平均値を有するブロックコポリマーからなる群から選択される、請求項１～３のいずれか１項に記載の液体調製物。

【請求項５】
ａ）のポリマーにおいて、Ｘが１～１８個の炭素原子を有する分岐または直鎖アルキル、または２～１８個の炭素原子を有し、飽和または部分不飽和であり、ヒドロキシル官能基を有してもよい分岐または直鎖カルボニルであり、Ｙが、水素または１～６個の炭素原子を有する分岐または直鎖アルキル、または２～６個の炭素原子を有し、飽和または部分不飽和であり、ヒドロキシル官能基を有してもよい分岐または直鎖カルボニルである、請求項１に記載の液体調製物。

【請求項６】
ａ）のポリマーにおいて、Ｘが１～６個の炭素原子を有する分岐または直鎖アルキル、または１～６個の炭素原子を有し、飽和または部分不飽和であり、ヒドロキシル官能基を有してもよい分岐または直鎖カルボニル、ｙが１～１８個の炭素原子を有する分岐または直鎖アルキル、または２～１８個の炭素原子を有し、飽和または部分不飽和であり、ヒドロキシル官能基を有してもよい分岐または直鎖カルボニルである、請求項１に記載の液体調製物。

【請求項７】
ａ)のポリマーにおいて、ｍ+ｎが１～３０である、請求項１、５および６のいずれか１項に記載の液体調製物。

【請求項８】
ａ)のポリマーにおいて、ｍ+ｎが、好ましくは１～２０である、請求項１および５～７のいずれか１項に記載の液体調製物。

【請求項９】
ａ)のポリマーにおいて、ｍ+ｎが、好ましくは１～１５である、請求項１および５～８

のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項１０】
ａ）のポリマーにおいて、ｍがゼロに等しい場合、前記少なくとも１つのエトキシル化有機液体の分子量（ＭＷ）が１９０質量単位以上である、請求項１および５～９のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項１１】
ｍがゼロに等しい場合、前記少なくとも１つのエトキシル化有機液体の分子量（ＭＷ）が２０５質量単位以上である、請求項１０に記載の液体調製物。
【請求項１２】
前記ａ）のエトキシル化および／またはプロポキシル化有機液体が、ポリエチレンオキシド、エトキシル化アルコール、モノ－／ポリエチレンオキシドジエーテル、モノ－／ポリエチレンオキシドエーテルエステル、エトキシル化カルボン酸、モノ－／ポリエチレンオキシドジエステル、ポリプロピレンオキシド、プロポキシル化アルコール、モノ－／ポリプロピレンオキシドジエーテル、モノ－／ポリプロピレンオキシドエーテルエステル、プロポキシル化カルボン酸、モノ－／ポリプロピレンオキシドジエステル、アルコールプロポキシレート－エトキシレート、カルボン酸プロポキシレート－エトキシレートおよびカルボン酸プロポキシレート－エトキシレートエーテルからなる群より選択される、請求項１および５～１１のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項１３】
前記エトキシル化および／またはプロポキシル化有機液体が、少なくとも５０重量％の量で存在する、請求項１～１２のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項１４】
水混和性である、請求項１～１３のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項１５】
前記真菌胞子が、植物保護における生物的防除剤または植物健康増進剤として有効な真菌種に由来する、請求項１～１４のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項１６】
前記真菌種が昆虫病原性真菌である、請求項１～１５のいずれか１項に記載の液体製剤。
【請求項１７】
前記真菌種が殺線虫活性真菌である、請求項１～１５のいずれか１項に記載の液体製剤。
【請求項１８】
前記真菌種が、Ｉｓａｒｉａ ｆｕｍｏｓｏｒｏｓｅａ、Ｐｅｎｉｃｉｌｌｉｕｍ ｂｉｌａｉｉ、Ｍｅｔａｒｈｉｚｉｕｍ ａｎｉｓｏｐｌｉａｅ、Ｐｕｒｐｕｒｅｏｃｉｌｌｉｕｍ ｌｉｌａｃｉｎｕｍ、Ｃｏｎｉｏｔｈｙｒｉｕｍ ｍｉｎｉｔａｎｓ、Ｂｅａｕｖｅｒｉａ ｂａｓｓｉａｎａおよびＣｌｏｎｏｓｔａｃｈｙｓ ｒｏｓｅａからなる群より選択される、請求項１～１７のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項１９】
界面活性剤、レオロジー調整剤、消泡剤、酸化防止剤および染料の群から選択される少なくとも１つの物質をさらに含む、請求項１～１８のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項２０】
前記レオロジー調整剤が、ヒュームド（疎水性／親水性）または沈降シリカ、天然起源のシリカ、アタパルジャイトベースのレオロジー調整剤、有機改質粘土、およびそれらの混合物からなる群より選択される、請求項１９に記載の液体調製物。
【請求項２１】
前記レオロジー調整剤がヒュームドシリカである、請求項２０に記載の液体調製物。
【請求項２２】
０．１～４０重量％の真菌胞子、９９．９％までの請求項１～１３のいずれか１項に記載の少なくとも１つのエトキシル化および／またはプロポキシル化有機液体および０～１

０重量％の少なくとも１つの界面活性剤および／またはレオロジー調整剤を含む、先行する請求項のいずれか１項に記載の液体調製物。
【請求項２３】
請求項１～２２のいずれか１項に記載の液体調製物を含む液体組成物。
【請求項２４】
植物内または植物上の植物病原性真菌、昆虫および／または線虫を防除するための方法、植物の成長を増強するための方法、または植物の収量もしくは根の健康を増加させるための方法であって、先行する請求項のいずれかに記載の液体調製物または液体組成物の有効量を前記植物または植物が成長しているかまたは成長することが意図されている場所へ施用することを含む、前記方法。
【請求項２５】
植物保護剤としての、または植物の活力および／または植物の健康を促進するための、先行する請求項のいずれかに記載の液体調製物または液体組成物の使用。